



昔一九三〇年代の末から四五五年まで、日本国では人を罵るのに、「それでもお前は日本人か」と言うことが流行っていた。「それでも」の「それ」は、相手の言葉や行動で、罵る側では「それ」を「日本人」の規格に合わないと思なしたのである。その規格は軍国日本の政府が作ったもので、戦争を行うのに都合にできていた。日本人集団への帰属意識を中心として、団結を強調し、「一億一心」、「個人の良心の自由を認めず」、「滅私奉公」、「神である天皇を崇拜する」、「宮城廻拜」。そういう規格日本人の集団に属さない外国人または外国かぶれの日本人はすべて潜在的な敵であった（「名譽ある孤立」）。国際紛争は、武力による威嚇又は武力の行使によって解決する（「撃ちてし止まん」）。多くの日本人はそういう規格に合わせて生きていたのである。



夕陽妄語

加藤周一

しかし例外はあった。その一人
 飲送会での出来事を記述している。一九四五年三月三日の夜、東京、著者の自宅でのことである。当時東大法学部の学生であった橋川文三とその同級生の一人が、白井——当時海軍軍令部に勤めていた——に食ってかかり、

「きみ、それでも日本人か」と言
 いた。そのきっかけはわからないが、白井は落ち着いて、「いや、まず人間だよ」と答えたとい
 う（前掲書、一〇七ページ）。そ
 こで自分たちが、「まず日本人
 だ」という主張と「まず日本人
 という主張が対立して、問答がお
 よそ次のように続いた。

「まず人間とは何だい。ほくた
 ち、まず日本人じゃあないか」
 「違つねえ、どこの国民でも、
 まず人間だよ」
 「何て非国民！まず日本人だ
 ぞ」
 「馬鹿なことをいうなよ。何よ
 りもさきに、人間なんだよ」
 というところで、橋川とその友
 人の二人が殺気立ち、「そんな非
 国民、たたききつてやる」と叫
 ぶ。同席した友人たちが間に入っ
 て暴力の行使には到らなかつた
 が、「これはいつまでも記憶に残
 って消えませんでした」と宗左近
 氏は書いている。同席の人たちの
 何人かは私の知人でもあり、その
 中の一人に私は宗氏の記憶に誤り
 がないかどうかを確かめたが、彼は

「まず日本人」説を主張する
 で、「まず日本人」説を主張する
 のは、多かれ少かれ大勢順応主義
 であり、当人が自覚しようとしま
 いと、権力順応主義でもあった。
 そこに同調せず自説を曲げなかつ
 た白井の精神の自由を私は尊敬す
 る。

「まず日本人」主義者と「まず
 人間」主義者との多数・少数関係
 は、四五年八月を境として逆転し
 た——ように見える。しかしほん
 とうに逆転したのだろうか。もし
 そのとき日本人が変わったのだとす
 れば、「それでもお前は日本人
 か」という科白をこの国で再び聞
 くことはないだろう。もしその変
 身が単なる見せかけにすぎなかつ
 たとすれば、あの懐しい昔の歌が
 再び聞こえてくるのも時間の問題
 だろう。あの懐しい歌——「それ
 でもお前は日本人か」をくり返し
 ながら、軍国日本は多数の外国人
 を殺し、多数の日本人を犠牲に
 し、国中を焼土として、崩壊し
 た。その反省から成立したのが日
 本国憲法である。その憲法は人権
 を尊重する。人権は「まず人間」
 に備るので、「まず日本人」に備
 るのではない。国民の多数が「そ
 れでも日本人か」と言う代りに
 「それでも人間か」と言い出すで
 あるときに、はじめて、憲法は
 活かされ、人権は尊重され、この
 国は平和と民主主義への確かな道
 を見出すだろう。（評論家）

「まず日本人」説を主張する
 のは、多かれ少かれ大勢順応主義
 であり、当人が自覚しようとしま
 いと、権力順応主義でもあった。
 そこに同調せず自説を曲げなかつ
 た白井の精神の自由を私は尊敬す
 る。

「まず日本人」説を主張する
 のは、多かれ少かれ大勢順応主義
 であり、当人が自覚しようとしま
 いと、権力順応主義でもあった。
 そこに同調せず自説を曲げなかつ
 た白井の精神の自由を私は尊敬す
 る。

「まず日本人」説を主張する
 のは、多かれ少かれ大勢順応主義
 であり、当人が自覚しようとしま
 いと、権力順応主義でもあった。
 そこに同調せず自説を曲げなかつ
 た白井の精神の自由を私は尊敬す
 る。

「まず日本人」説を主張する
 のは、多かれ少かれ大勢順応主義
 であり、当人が自覚しようとしま
 いと、権力順応主義でもあった。
 そこに同調せず自説を曲げなかつ
 た白井の精神の自由を私は尊敬す
 る。

「まず日本人」説を主張する
 のは、多かれ少かれ大勢順応主義
 であり、当人が自覚しようとしま
 いと、権力順応主義でもあった。
 そこに同調せず自説を曲げなかつ
 た白井の精神の自由を私は尊敬す
 る。

「まず日本人」説を主張する
 のは、多かれ少かれ大勢順応主義
 であり、当人が自覚しようとしま
 いと、権力順応主義でもあった。
 そこに同調せず自説を曲げなかつ
 た白井の精神の自由を私は尊敬す
 る。

「まず日本人」説を主張する
 のは、多かれ少かれ大勢順応主義
 であり、当人が自覚しようとしま
 いと、権力順応主義でもあった。
 そこに同調せず自説を曲げなかつ
 た白井の精神の自由を私は尊敬す
 る。

「まず日本人」説を主張する
 のは、多かれ少かれ大勢順応主義
 であり、当人が自覚しようとしま
 いと、権力順応主義でもあった。
 そこに同調せず自説を曲げなかつ
 た白井の精神の自由を私は尊敬す
 る。

「まず日本人」説を主張する
 のは、多かれ少かれ大勢順応主義
 であり、当人が自覚しようとしま
 いと、権力順応主義でもあった。
 そこに同調せず自説を曲げなかつ
 た白井の精神の自由を私は尊敬す
 る。

「まず日本人」説を主張する
 のは、多かれ少かれ大勢順応主義
 であり、当人が自覚しようとしま
 いと、権力順応主義でもあった。
 そこに同調せず自説を曲げなかつ
 た白井の精神の自由を私は尊敬す
 る。

「まず日本人」説を主張する
 のは、多かれ少かれ大勢順応主義
 であり、当人が自覚しようとしま
 いと、権力順応主義でもあった。
 そこに同調せず自説を曲げなかつ
 た白井の精神の自由を私は尊敬す
 る。

「まず日本人」説を主張する
 のは、多かれ少かれ大勢順応主義
 であり、当人が自覚しようとしま
 いと、権力順応主義でもあった。
 そこに同調せず自説を曲げなかつ
 た白井の精神の自由を私は尊敬す
 る。